

社会科(地理的分野)学習指導案

令和 7年 月 日 ()

1年 組

1 単元名 「アジア州」

2 単元設定の理由

(1) 生徒観

本学級は、社会的事象に対して興味・関心をもち、授業に積極的に取り組む生徒が多い。しかし、社会的事象の背景について、自ら複数の資料を調べたり、考えを深めたりするような主体的に学ぶ姿勢には課題がある。また、学習課題への取り組みに対して支援を必要とする生徒も数名いる。

既習の「世界各地の人々の生活と環境」では、写真資料から様々な地理的特徴を読み取ったり、雨温図から気候や植生を読み取ったりする活動を通して、各地の自然環境と人々の生活とを関連付けて学習してきた。また、各地域の衣食住の特徴について、写真資料から気候区分を推測させ、話し合い活動を通して判断させ、自分達の衣食住と比較させることなどを通して学習してきた。生徒達は、これまで生きてきた 12 年間の経験を基にしながら、異なる気候における人々の生活について意欲的に学ぼうとしてきた。学習を進める中で、1枚の写真を読み取ることはできるようになってきたが、複数の資料を比較したり関連付けてまとめたりすることは不十分である。

(2) 教材観

本単元は、学習指導要領（平成 29 年度告示）における地理的分野の「2 内容 B 世界の様々な地域（2）世界の諸地域 ①アジア」に基づくものである。中項目「世界の諸地域」では、空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、世界の各地域で見られる地域的課題の要因や影響をその地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成することを主なねらいとしている。

アジア州は「世界の諸地域」における初めの単元であり、その多様な地域的特色から、写真資料や統計、グラフなど、様々な資料を読み取る技能が身に付く教材である。

(3) 指導観

アジア州には世界人口の約 60%が集まっており、自然環境も多様である。中でも、インドの人口は 2024 年には中華人民共和国を抜いて世界一位となり、経済的にも 2025 年には日本を抜いて世界第 4 位の経済大国になるとされ (IMF による名目 GDP

比較)、めざましい発展を遂げている。なぜ、インドが近年 ICT 関連産業について急速に発展してきたのかについて、複数の資料から社会的な見方・考え方を働かせ、考察させたい。その際、経済発展を成し遂げたのは一元的な要因ではなく、歴史や地理的位置など、複数の事柄が関連しあっていることに気付かせたい。また、話し合い活動を通して課題を追究させることで、様々な意見を基に考えを深めたり、得た知識を関連付けてまとめたりする力を付けさせたい。

3 単元の目標

- ・アジア州には世界人口の約 60%が集まっていることについて、自然環境や農業の視点から資料を読み取る技能を身に付けるようにする。 【知識及び技能】
- ・アジア州の国々が急速に経済発展を遂げている理由を、人口増加や他地域との結び付きなどに着目し、考察する力を養う。 【思考力、判断力、表現力等】
- ・アジア州の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、捉えさせる。 【学びに向かう力、人間性等】

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① アジア州に世界人口の約 60%が集まっていることを理解している。 ② アジア州の自然環境や農業の特徴などを複数の資料から読み取ることができている。	アジア州の国々が急速に経済発展を遂げている理由を、人口増加や他地域との結び付きなどに着目し、考察している。	アジア州の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。

5 指導と評価の計画 (全 8 時間) ○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」

次	ねらい・学習活動	評価の観点			評価規準 (評価方法)
		知	思	態	
第一 次 1 時 間	【ねらい】 アジア州の中で人口が集中している地域に共通する自然環境の特徴をまとめさせる。 ◇アジア州で人口が集中している地域と自然環境の特徴とを関連付けて理解する。	●			●人口が集中している地域に共通する地理的事象を、自然環境の特徴と関連付けて理解している。 (発表・ワークシート)

<p>第二次 1時間</p>	<p>【ねらい】 アジア州の農業について、季節風の影響や降水量の違い、米の生産性に着目させて理解させる。</p>	<p>◇アジア州の農業について、季節風、降水量、米の生産量と関連付けて理解する。</p>	<p>●</p>		<p>●アジア州は米や小麦をつくるのに適した気候であり、特に生産量が多く、主食である米は多くの人口を養うことができることを理解している。 (ワークシート)</p>
<p>第三次 1時間</p>	<p>【ねらい】 中国が世界二位の工業大国になった要因を、農業と工業の視点から理解させる。</p>	<p>◇中国の農業や工業化について、複数の資料を読み取り、その特色を理解する。</p>	<p>●</p>		<p>●自然環境に合わせた農業分布や、賃金が安く、豊富な労働力によって急速に工業化してきたことについて資料から読み取り、その特徴を理解している。 (ワークシート)</p>
<p>第四次 1時間</p>	<p>【ねらい】 韓国が経済発展を遂げてきた理由を資料から読み取り、輸出に重点を置いたこととコンテンツ産業を充実させてきたことを理解させる。</p>	<p>◇韓国では 1960 年代後半から「漢江の奇跡」と呼ばれた高度経済成長を経て、2000 年代以降は情報通信技術 (ICT) やコンテンツ産業の分野に力を入れていることを理解する。</p>	<p>●</p>		<p>●朝鮮戦争後の重工業、2000 年代以降の ICT 関連産業やコンテンツ産業に力を入れていることを理解している。 (ワークシート)</p>
<p>第五次</p>	<p>【ねらい】 東南アジアの国々が経済発展を遂げてきた理由を資料から読み取り、輸出に重点を置いたことと低い賃金で労働者を雇えることを理解させる。</p>	<p>◇インドネシアでは、工業団地を整備し、低い賃金</p>	<p>●</p>		<p>●輸出を目的とした工業団地と低い賃金の労働力があること</p>

1 時 間	の労働者を提供して、外国企業を招いたことにより工業化が進んだことを理解する。				で工業化が進んだことを理解している。(ワークシート)
第六次	【ねらい】インドが急速に経済発展を遂げた理由を複数の資料から読み取り、考察させる。				
1 時 間 (本 時)	◇インドでは広大な国土と世界一の人口を有し、近年ICT関連産業がめざましい発展を遂げた。その理由について、「地理的な位置」「歴史」「教育」「社会構造」の視点から考察する。		○	●	○インドでICT関連産業が急速に発達した理由について、「地理的な位置」「歴史」「教育」「社会構造」の資料から読み取ることができる。(ワークシート)
第七次	【ねらい】アラブ首長国連邦が砂漠の中のリゾート地として有名になった理由を、複数の資料から読み取り、考察させる。				
1 時 間	◇アラブ首長国連邦では豊富な鉱産資源の輸出に頼るだけでなく、第三次産業にも注力していることについて複数の資料から考察する。		●		●アラブ首長国連邦では産業の基盤が原油であるとともに、その利益を第三次産業の発展に活かしていることを理解している。(ワークシート)
第八次	【ねらい】アジア州の国々が急速に経済発展を遂げている理由を、これまでの学習の視点からまとめさせる。				
1 時 間	◇アジア州の国々が急速に経済発展を遂げている理由について、人口増加や他地域との結び付きなどに着目し、100字程度でまとめる。		●		●アジア州の国々の特徴をふまえた上で、複数の視点から経済発展を遂げている理由を100字程度でまとめることができる。(ワークシート)

6 本時

(1) 目標

インドで ICT 関連産業が急速に発達したのはなぜだろうか。

(2) 展開

時 間 (分)	学習活動	指導の手立てと評価
5	1 「この国はどこでしょう？」クイズに答える。	○ICT を使い、写真を提示する。
5	2 インドについて知っていることを発表する。	○なるべく多くの意見が出やすいよう指示する。
インドで ICT 関連産業が急速に発達したのはなぜだろうか。		
10	3 インドの「地理的な位置」の視点から考察する。	○インドと同じ経度に位置する国も当てはまるか問う。
15	4 「歴史」「教育」「社会構造」の視点から考察する。	○ワークシートに記述させる。
10	5 班活動で、4つの観点の共通点を見つけたり、関連付けたりして考察する。	・班で意見交換を通して複数の観点から説明しているか。 (観察・ワークシート)
5	6 本時の目標に対する自分の考えを発表する。	

(3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況の例	「地理的な位置」「歴史」「教育」「社会構造」のうち、複数の視点から、学習課題に対する答えを理由も含めてまとめることができる。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	学習した語句を使って、学習課題に対する答えを書くよう声かけを行う。